

環境モニタリング結果の解析について

(令和元年10月1日～12月31日公表分)

令和2年1月27日
原子力規制委員会

『総合モニタリング計画』に基づき、関係機関がモニタリングを行い、令和元年10月1日～12月31日に公表された結果は以下のとおりです。

なお、ここでのモニタリングとは、東京電力福島第一原子力発電所事故後に、日本の空間線量や環境中の放射性物質濃度がどのように変化しているかを継続的に測定しているものです。

【福島県全域】

- ・ 空間線量は、全体的に減少傾向にあり、特別な変化はありませんでした。
- ・ 大気浮遊じんの放射性物質濃度は、全体的に減少傾向にあり、特別な変化はありませんでした。
- ・ 月間降下物の放射性物質濃度は、全体的に減少傾向にあり、特別な変化はありませんでした。
- ・ 海水の放射性物質濃度には、10月中旬の台風による大雨の影響による一時的な上昇が見られました。
- ・ 海底土の放射性物質濃度には、10月中旬の台風による大雨の影響により、一部の測定点において上昇が見られました。

【その他の地域】

- ・ 空間線量は、おおむね事故以前の水準で推移しており、特別な変化はありませんでした。
- ・ 月間降下物の放射性物質濃度は、全体的に減少傾向にあり、特別な変化はありませんでした。
- ・ 海水の放射性物質濃度は、全体的に減少傾向にあり、特別な変化はありませんでした。

○ 上記、「特別な変化」とは、「過去の傾向とは異なる変化」を示します。

○ 本資料（別紙、別紙資料を含む）は、以下のURLで公開されています。
<http://www.nsr.go.jp/activity/monitoring/monitoring2-2.html>

○ これらのモニタリング結果は、以下のURLで公開されています。
<http://radioactivity.nsr.go.jp/ja/index.html>

詳細については別紙を、基礎データについては別紙資料を御参照ください。